

事務事業 No./名 称	■サービス部門 都整-28 □支 援 部 門		雨水施設維持管理事業					
主管課	浄化センター	関連課	河川課					
分野名	下水道・河川							
目標 (目標値)	大雨や台風による洪水や溢水から市民の生命・財産を守る							
人口等の データ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備 考			
	人 口	177,161人	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)			
	世 帯 数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯				
	事業の対象者数							
運営資源 状 況	決算値(千円)	14,049	18,195	11,569				
	(国・県)							
	(負担金等)							
	(一般財源)	14,049	18,195	11,569				
	人員配置数	0.5	0.5	1.2				
	人 件 費(千円)	4,284	4,469	10,840				
	協 働 の パートナー							
事務事業 運営経費	総事業費(千円)	18,333	22,664	22,409				
	市民1人当 りの経費(円)	103	128	127				
	対象者1人 当りの経費(円)							
ベンチマーク (県内外自治体 や民間団体と の比較値)	団体名							
指 標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)	
雨水調整池の点検	◎	目標値	7箇所	7箇所	7箇所	7箇所	7箇所	
実績値		7箇所	7箇所					

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。				②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。			
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。				④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。			
小事業名	H22決算値	評価 適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)				⇒ 方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止			
雨水施設維持管理事業	14,049千円	①効率性	○	②妥当性	○	③有効性	○	④公平性	○	⇒ ■A □B □C □D □E
	事業の概要	雨水調整池やゲート類等の維持管理業務								
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)					
H22年度の課題	機器類の延命化を行なっているが、限界があり、更新・取替等が必要である。既定予算範囲では機器の性能を十分に発揮することが困難となりつつあり、近年の都市型水害や大雨等の被害を防止できなくなる恐れがある。				
課題解決のための取組	老朽化した機器類の維持に努め、突発故障の防止を図った。				
未解決の課題	22年度同様、更新・取替まで老朽化した機器類の維持に万全を期す。				
今後の方針	都市型災害や台風時に、雨水調整池(自然流下方式・ポンプ排除方式)が正常に稼働できるように施設改修及び維持管理についてコスト意識を考慮しつつ進めていく。				
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	⇒	A	※ □事業完了	課長名 浄化センター所長 原秀広

